# 令和7年度信州アカマツ等販路拡大事業　＜概要＞

## 背景・目的

わが国においては、松くい虫によるアカマツの松枯れ被害が深刻である。長野県には現状、アカマツが豊富に賦存していることから、これらが松枯れの進行によって利用価値を失う前に、計画的に伐採・製品化し、有効に活用することで森林の循環を図ることが急務になっている。

しかし、長野県の林業・木材産業における主要樹種であるカラマツと比較すると、アカマツは製品化や流通のネットワークが十分に確立されていないのが現状である。したがって、松枯れがさらに進行する前に、アカマツの伐採および製品化を急ぎ進めていくためには、需要のある製品の開発・普及、ならびに流通・販売網の確立・拡大に取り組む必要がある。

こうした認識を踏まえ、本事業は、**長野県産のアカマツ（信州アカマツ）材の高付加価値化・利用促進・販路拡大に向けた今後のプロモーション戦略や商品開発、流通施策検討の基礎資料を得るため、県内の素材生産業者、木材市場、木材加工事業者、流通業者における信州アカマツの流通状況や課題の把握を目的として実施した。**

## 調査フロー

### 調査１：販路拡大に向けた基礎調査

- 長野県内のアカマツ資源量・供給可能量
- アカマツの製品メニュー（フローリング、集成材、他ニッチ製品等）
- アカマツを取り扱う県内外でのプレイヤー・取組事例
- 地域産材のブランド化、販路構築の事例
  - ■ 主体ごとのケース（民間主導型・自治体主導型）
  - ■ 参考にすべきバリューチェーンの構築・運用方法（伐採・搬出～加工～流通網の構築、製品メニュー開発、販路開拓）

### 調査２：流通実態調査

- 長野県内の関係プレイヤー（上流～下流）の実態・今後のアカマツの取扱い意向
- 木材流通網、アカマツの取扱い拡大に向けた課題及び必要な支援・制度

### 調査３：信州アカマツ等販路拡大に向けた分析・検討

- 地域づくりの担い手、とりまとめ役となりうるプレイヤー
- 競合となりうる樹種・製品及びそれらの価格帯

**信州アカマツの高付加価値化、利用促進、販路拡大に向けた検討**

- ■ 今後のアカマツ販路拡大に向けた方向性（案）の作成
- ■ 有識者、民間事業者等の参加による第１回検討会の開催
  →長野県内のアカマツの販路拡大に向けた方向性

＜調査の視点＞

- アカマツ材調査
- 取組事例調査
- 県内プレイヤー調査

# 令和7年度信州アカマツ等販路拡大事業　＜概要＞

## 調査１：販路拡大に向けた基礎調査

■ **調査概要**

- 長野県の森林・林業に関する統計資料等の分析、有識者へのヒアリング調査、全国のアカマツ取扱事業者および地域産材を新たにブランド化し販路構築を目指す事例のWEBサイト・文献調査により、アカマツの販路拡大に向けた基礎情報を整理した。

■ **調査結果**

**＜長野県内のアカマツ資源量・供給可能量＞**

- アカマツ林は県内民有林の15%程度を占め、南信地域に最も多く、中信・東信にもまとまった資源がある一方、北信は資源量が少ないことを把握した。また、高齢級が多く、ほとんどが標準伐期齢以上であることも把握した。
- 素材生産量は県内３位の樹種（カラマツ、スギに次ぐ）であり、素材出荷のA~D材比率は地域により大きく異なる。また、県産材アカマツは素材生産量のうち7～8割が県内で流通している。
- 素材販売価格は約1.2万円/$m^3$と他県並みである一方、カラマツ・ヒノキ・スギよりも低価格（他県の価格動向の要因は継続調査が必要）であることが明らかとなった。

**＜アカマツの製品メニュー／アカマツを取り扱う県内外でのプレイヤー・取組事例＞**

- 長野県内での主力製品は梁桁、フローリング、土留板、燃料などで、特にフローリング材や土留板の取扱いが多い。
- また、「梁桁材」、「集成材、CLT、LVL（構造用・造作用）」、「内装材・外装材」、「合板」、「そのほか（パレット、チップ、土木用材（矢板、杭、足場板）、家具材料、茶室の間柱、陶芸燃料、リンゴ箱）」に関する全国的なアカマツ材の過去から現在における利用状況を整理した。
- アカマツ製品の価格帯は数千円～数十万円（製品単価）と幅がある。
- 産出されるC・D材については、需要（製紙用・燃料用）もこれに応える事業者（チップ加工事業者）とも県内各地に一定程度いる状況であるため、A・B材の需要を見定めて製品開発・生産拡大・販路構築をしていくことが重要であると整理した。

**＜地域産材のブランド化、販路構築の事例＞**

- 先進事例調査よりブランド化にあたり必要な観点を整理した。（アカマツの弱み・強みの把握と出口の特定の重要性、消費者に納得感のあるストーリ性の構築、デザインとの連携、連携組織の介在、公共施設での利用実績の構築等）

# 令和7年度信州アカマツ等販路拡大事業　＜概要＞

## 調査２：流通実態調査

■ **調査概要**

- 長野県内の関係プレイヤーに対する今後のアカマツの取扱い意向、木材流通網、アカマツの取扱い拡大に向けた課題及び必要な支援・制度を確認し、県内各地域における現状を把握した。

■ **調査結果**

**＜長野県内の関係プレイヤー（上流～下流）の実態・今後のアカマツの取扱い意向＞**

- 林業事業体・原木市場の出荷先は７割が地域内、素材生産量のうち７～８割が県内で流通していることを把握した。
- 県産材アカマツ取扱拡大可能性ありが56.7%、取扱拡大意向ありが60.0%と、県産材アカマツの取扱拡大に積極的な事業者が多い（特に川下側）ことが把握された。

**＜木材流通網、アカマツの取扱い拡大に向けた課題及び必要な支援・制度＞**

- アカマツの品質への評価は「見た目がきれい、柔らかく加工しやすい、あたたかみがある」といった高評価の一方、「乾燥時に割れや反りが生じる、曲がり・輪生節・青変菌等による見た目の悪さ」といった課題も指摘されている。また、事業性の観点でも「販売価格が低く事業性が低い、伐採時期や移動制限により供給が安定しない、曲がり・輪生節・青変菌等による歩留まりの低下」といった課題が指摘されている。
- 地域ごとにアカマツ林の齢級構成や管理状況が異なり、地域特性を踏まえた施策が必要なことを把握した。
- 川上側では地域の森林管理面での意義を感じる一方、事業性や経済性の面での課題意識が高い傾向があった。

# 令和7年度信州アカマツ等販路拡大事業　＜概要＞

## 調査３：信州アカマツ等販路拡大に向けた分析・検討

■ **調査概要**

- 調査１・２の調査結果・分析を踏まえ、今後のアカマツ販路拡大に向けた方向性（案）を作成した。
- その後、本年度に実施した調査結果の共有、県内事業者との意見交換を行うことで、長野県内のアカマツの販路拡大に向けた方向性を見出すことを目的に検討会を実施した。

■ **調査結果**

**＜今後のアカマツ販路拡大に向けた方向性（案）＞**

- 資源量・供給可能量調査からは、「早期に、新たな資源活用サイクルを構築」「生産・出荷の特性を踏まえ、地域単位で構築」「地域内の実情に閉じず、販路拡大を検討」という方向性（案）を提示した。
- また、流通実態調査からは「アカマツの取扱いに積極的な事業者を中心に新たな事業化に向けた方向性を検討する」「アカマツ材の品質を活かせるよう、用途拡大・販路拡大を目指し、事業性向上を目指す」「山側・流通側の取扱い動機に沿った形で流通拡大を進めていく」という方向性（案）を提示した。

**＜検討会の開催結果＞**

- 令和８年３月12日（木）に県立長野図書館において開催し、委員6名、民間事業者30名（林業事業体13名、原木市場1名、木材加工8名、流通業者3名、その他5名）が参加した。
- 検討会において、関係プレイヤーによる協議では、アカマツの利用拡大には、川上・川下の連携強化、人的ネットワーク・技術継承、製品開発・用途多様化、資源確保、情報発信・市場形成、販路拡大といった多面的な取り組みが不可欠であるとの示唆を得た。
- また、委員（有識者）からは、大きく分けて下記の4点に対する意見が提示された。
  ・アカマツの材質課題（割れ・ねじれ等）を踏まえた上で、特長として活かす製品開発・普及拡大が必要
  ・補助金に依存しない安定的な伐採・供給体制の実現のため、川上から川下までが連携強化が必要
  （森林認証取得、モデル事例、需給情報共有、多様な製品利用による歩留まり向上等）
  ・他県・他国のアカマツの利用事例や、需要家を含めた市場需要調査による販路拡大・製品開発が求められる
  ・事業者間の連携構築のためには、共に視察を行う等の共通体験を含めて対話できる取組が重要となる